



赤神神社五社堂

九百九十九段の石段

村里へ下りた鬼たちは畑を荒らし、若い娘をさらって は乱暴を繰り返していました。困った村人は思案の末、 武帝に相談にいきました。

「夜明けの一番鶏が鳴くまでに、村から五社堂まで千 段の石段を作ってくれ。見事完成させたなら毎年娘を1 人差し出そう。もし出来なかったら鬼たちを二度と村に は下ろさないでくれ。

鬼たちはそれを引き受け、日暮れとともに石を積み はじめました。鬼たちの働きは思いのほか早く、慌て 驚いた村人たちは石段が九百九十九段になった時、 物まね上手なアマノジャクに一番鶏の真似をさせま した。

それを聞いた鬼たちはあまりの悔しさと怒りで、傍ら にあった千年杉の大樹を根こそぎ引き抜き、根を上にし て大地にぐさりと突き刺し山へ帰ってしまいました。そ れからというもの、鬼たちがふたたび村に下りてくると いうことはありませんでした。

突き刺された杉の大樹は今では枯れてしまいました。





姿見の井戸 木造十一面観音菩薩立像

姿見の井戸の言い伝え

五社堂のすぐ下に「姿見の井戸」と呼ばれる古い井戸 があります。毎年7月17日のお川かけ詣りでは、参拝者が 一年を占うため自分の姿を映し見たといわれています。 はっきりと映ればその年は健康ですごすことができ、はっ きりしなければ災難や不幸にあい、まったく映らなければ その年の内に死んでしまうこともあると信じられていました。

木造十一面観音菩薩立像(秋田県指定文化財)

江戸時代前期の僧、円空の作です。一枚の板材から彫 りだされたいわゆる鉈彫りの作例で、背面は頭部を除い て平面のままになっています。全体的に穏やかな印象で、 顔の造形や衣のかかり方などには円空初期の特徴が見ら れます。保存状態が良好で、木肌は美しく、工具痕も300 年以上前のものとは思われない新鮮さを保っています。

このほか五社堂には2体の仏像(いずれも県指定文化 財)が納められています。

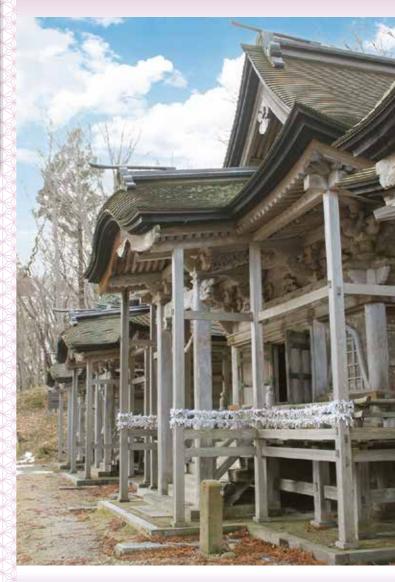
男鹿市文化スポーツ課

〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1 TEL 0185-24-9103

2025.03

重要文化財

赤神神社五社堂



秋田県男鹿市



五社堂について

五社堂は石段を登りつめた、標高約180mのところに 建っています。山中に同形式の五棟の社殿が並び建つ 様子は壮観です。

現在の建物は、宝永6年(1709年)に秋田藩主 佐竹 義格(さたけよしさだ)の命令で建てられました。しか し、300年を経て傷みが激しくなり、建設当初の姿に復 原するため、平成10年度~13年度までに大規模な修理 を行いました。

江戸時代中期の神社建築として保存されており、建立、 再建、建替、修理などの年代がわかっていて、秋田県内の 近世寺社建築を考える上で大変重要な建物であるため、 平成2年(1990年)に国の重要文化財に指定されました。

九百九十九段の石段の伝説

昔、漢の武帝につれてこられた5匹の鬼がいました。 鬼は年中休みなく働かされていましたが、正月の十五日 だけは自由が許されていました。

